幼保連携型認定こども園 じしょう幼稚園の情報紙＆子育て支援情報

じしょう ようちえん通信

vol.47
企画・編集：(株)ASO
2022

あしたも、
また遊ぼうね

芝生広場×安田式遊具で

いつでも体を動かして遊べる環境づくり

1歳児も2歳児も笑顔がいっぱい！

芝生広場は 内と外をつなぐ魅力的な遊び空間

子どもの「やりたい！」から始まる 子どもが主役の遊び場です。 スキマ時間にサッと遊んで 運動量 更新中！

慈照の園庭はとってもユニーク。園舎に沿うように人工芝のグリーンが敷かれ、大きさ、形、彩りもさまざまな遊具がいくつも並びます。人工芝と遊具の配置が、子どもの動線と遊びにどんな影響を与えているか、興味津々の取材です。先生方が教えてくれた３つのポイントから見えてきたことは……。

レポーター　あきもと　さちこ

POINT 02 自由さ

自由に体を動かす楽しさ。工夫し、チャレンジし、友だちと考え合う姿も。

自由に遊ぶ中で、できることが自然に増えていきます。できるとうれしいし、もっとやりたいと意欲的に。「どうやったらいいか」話し合う姿も以上児ではよく見られるそうです。

逆上がり練習中！

POINT 01 運動量

園舎前の遊具と人工芝は、保育室から出てすぐに遊べます。

平均台

人工芝は上履きやはだしのままで遊べる空間です。ちょっとしたスキマ時間に、外靴に履き替える手間もなくサッと遊ぶことができます。おのずと体を動かす回数も増えていきます。

お部屋から出ですぐ遊べるよ。

足をかけてのぼれます

担任の先生に聞きました

子どもの遊ぶ姿から見える芝生広場のよさは？

年少

「高いところに登れた！」「できた！」が自信につながっています。

平均台や鉄棒が身近な遊具になっていて、平均台を自由に動かして新たな遊び方を考えだしたりしています。芝生広場は異年齢との関わりも多く、年中・年長さんからたくさんの刺激をもらっています。

２歳児

「順番こ、待ってて！」と声をかけたり、心の面の成長には目をみはります。

友だちが登るのを見て「自分も！」って挑戦しています。高い所に登るのは大好きですね。ヒヤヒヤすることもあるけれど、見守ることを大事にしています。挑戦が失敗してやせ我慢する姿もありましたがこれも成長の証です。

１歳児

保育室から出てすぐ遊べるので、１歳児はこの広場が大好き！

ぶら下がる腕の力や足の力がずいぶんついてきました。高いジムにも怖がらずにどんどん挑戦するようになってきました。部屋からすぐ出られるので毎日遊んでいます。

芝生広場で遊んだあとは、園庭をお散歩。

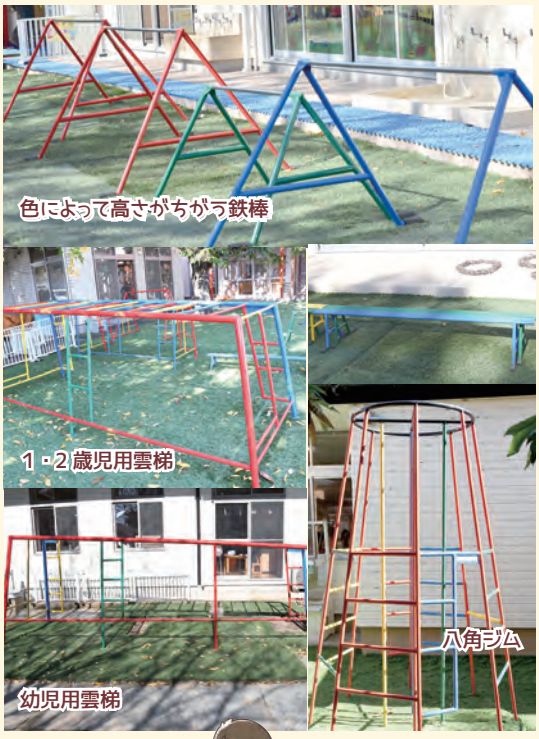
体を動かすのは楽しいという時間をたくさん味わってほしい

村中園長のお話

園庭の環境を見直そうと思ったのはなぜですか？

群馬はどこへ行くにも車。東京以上に車社会です。子どもの運動不足は、将来的にも情緒の発達やコミュニケーション能力に悪影響を及ぼすと危惧されていて、幼稚園で子どもたちがもっと体を動かして遊べる方法はないかとずっと考えていました。今ある保育カリキュラムを削って時間を捻出するのはむずかしいことから、スキマ時間をうまく使えないかと思いついたのが始まりです。

安田式遊具



取材を終えて

芝生広場のよさをあらためて知ることができた取材でした。1歳児の大胆な遊びっぷりにも目をみはります。どの学年の先生も芝生広場で遊ぶよさを熱く語ってくれました。子どもたちの成長が楽しみです。

POINT 03

安田式

『安田式遊具』で子どもが遊びたがるワケ。

例えば鉄棒の横には足を掛ける所が付いていて、一人でも登り易かったり、鉄の太さも年齢に合わせて握り易い太さになっています。色で難易度がわかるなど、子どもが遊びたがる工夫がいろいろ。木に登って遊ぶようなスリルと面白さがあります。

足裏を刺激して、バランス感覚を養います。

2歳児はのぼるのが大好き。

年長

「先生、逆上がりやってくるね！」と自分からやるので上達のスピードが速い。

上履のままサッと行けるので繰り返し練習でき上達も速いです。できるとうれしいし、もっと難しい技に挑戦したいと目標をもってイキイキしています。空中逆上がりをする子もいます。

年中

やってみたい！挑戦したい！という気持ちがどんどん育っています。

想像もしてなかった技にチャレンジたり、「どうすればできるか」を自分たちで話し合ったり、スキマ時間を使って友だちとずっと体を動かしています。年長への憧れも大きいですね。

世界が注目！ 人生を豊かに生きる力とは？

幼児期からの「非認知能力」の育て方

「人生で成功するためにも大事な力」として注目されている「非認知能力」。「その育ちは乳幼児期から」と聞くと気になりますよね。そもそも非認知能力とは？育て方は？　育児誌や子育て番組でもおなじみの汐見先生にやさしく解説していただきます。

お話／東京大学名誉教授　汐見稔幸先生

非認知能力って何ですか？
非認知能力とは、未来を生きるために必要な「ほんとうのかしこさ」

みなさんは「かしこい子」ってどんな子どもだと思いますか？

かつては「学校の勉強ができる＝かしこい」というとらえ方が一般的でしたよね。でも、時代がどんどん変化する中で、「これからの社会で活躍するには、テストの成績だけでははかれない、別のかしこさも必要だ」ということがわかってきました。

そのかしこさとは簡単に言うと、「実社会に出たときに、その場その場で上手に対応できる力」のこと。たとえば、困難に直面しても粘り強く頑張る力、失敗しても前向きに立ち直る力、いろいろな人とうまくかかわる力、集団をまとめるリーダーシップ力、気持ちをコントロールできる力など、いわば人生をポジティブに生きていくために必要な力のいろいろ、それらをまとめて「非認知能力」と呼んでいます。

学力（認知能力）ももちろん大切ですが、予測不能な未来を生きるには「どんな状況になっても、なんとかやりくりしていける力＝非認知能力」も大切。そんなこともちょっと意識しながら子育てをする時代になりましたよ、ということをまずは知ってほしいと思います。

認知能力と非認知能力

◉**認知能力**…文字が書ける、読める、計算ができるなど目に見える能力。IQ（知能指数）に代表されるような数値化できる能力。

◉**非認知能力**…認知能力以外の力を広く示す言葉。生きていくために必要な忍耐力、社会性、自信・楽観性などを中心とした「ポジティブに生きるために必要な能力」。

非認知能力ってどうやったら育つの？
子どもの非認知能力は「遊び」の中で育ちます

非認知能力は、子ども自身が「やりたい！」と思うことに夢中で取り組む中で育ちます。幼児期であれば、とにかく思い切り遊ばせてあげるのがいちばんです。

子どもが「やりたいこと」って、親が期待するのと全然違うことが多いですよね。石ばっかり集めてくるとか、虫ばっかり探しているとか。でも、それでいいんです。親はそういう子どもの姿を「いいね、いいね」と見守りながら、応援してあげましょう。

人間って好きなことには一生懸命になれるし、もっとやってみようと意欲が出るもの。うまくいかなくても、「どうしたらうまくいくかな？」と子どもなりに考えて、工夫したり、調べたり、人に聞いたり、誰かと協力したりしながら試行錯誤を上手にしていきます。こうした経験の中で、将来の非認知能力の基礎となるさまざまな力が育まれていくのです。

親ができることは？
主役は子ども。親は上手に見守りながら応援を

よほど危ないことは別として「そんな遊びやめなさい」は禁句。できるだけ子どもの「やりたい」を尊重してあげましょう。子どもがいろいろ模索しているときは、親はヒントを言い過ぎないで、子どもが上手に失敗するのを応援してあげたいもの。「できなーい」と言う子どもには、「うまくいかないの？　どうしてだろうね？」など、子どもが前向きに試行錯誤を続けられるような働きかけができるといいですね。

子どもが夢中で遊んでいるときは、少し離れたところから、「楽しそうに遊んでいるわ」と見守っていてあげましょう。親が自分のやっていることを肯定的に見守ってくれているとわかると、子どもは安心してやりたいことに没頭できます。

非認知能力は生きる力
「生きるっていいよね」と心から思える人に

たっぷり本気で遊んだ子どもは、ちょっとめんどうなことでも遊びに変えてしまう力が身についています。大きくなって試験勉強をするときにも、「やらなければならないから」とイヤイヤやるのではなく、「どうやったら試験勉強が面白くなるかな？」と考えて、自分に合った勉強法を工夫して頑張れます。「やらねばならない」を「やりたい」に変えられるというのは非認知能力の最たるもの。こういう子どもはやる気も持続するし、学力も伸びます。

この先どんな社会になっても、子どもたちには「やっぱり生きるっていいな」と心の深いところで思える人になってほしいもの。そのためにも幼児期の今から少しずつ、人生をかしこく生きる力を伸ばしていってほしいなと思います。

取材・文・中島恵理子

汐見稔幸 Toshiyuki Shiomi

一般社団法人家族・保育デザイン研究所代表理事。東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長。専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。自身も 3 人の子どもの育児を経験。NHK E-テレ「すくすく子育て」出演、保育者による交流雑誌『エデュカーレ』編集長、保育者のための学びの場「ぐうたら村」村長も務める。著書に、『エール イヤイヤ期のママへ』2021 年（主婦の友社）、『汐見稔幸 こども・保育・人間』2018 年（学研）ほか多数。

発行：(学)大乗学園　幼保連携型認定こども園 慈照幼稚園
〒379-2117 前橋市二之宮町 1812-7　https://www.jisho.ed.jp/　☎ 027-268-2557